

忍野八海

内八海は富士山の周囲に点在していたため、全箇所を巡るのには何日もかかりました。19 世紀後半になる頃、甲斐国のある富士講がこれに対する解決策を編み出しました。それは、明見湖と山中湖を結ぶ道沿いに都合よく位置していた忍草という村にある八つの泉を、代替的な八海として「再興」させるというものでした。

文献は、この「再興」では実は一日で巡ることができる範囲に八泉を確保するための新たな工事が行われたことを示唆しています。この計画は成功し、忍野八海は今日でも人気の観光地となっています。（忍野八海という名称自体は 1930 年代につけられたもので、それ以前は忍草の元八湖と呼ばれていました。）

また、近くの忍草浅間神社も、14 世紀に彫られた神の木像 3 体が安置されていることで有名です。3 体とも坐像です。最も大きい像は女神で、他の 2 体は男神です。